



事務事業の市民点検

中間報告

目次

1 実施結果の概要.....	1
2 中間報告の取りまとめ結果.....	2
3 アンケート結果について	3
4 次年度以降の市民点検について	10
5 参考：事務事業の市民点検 実施マニュアル（抜粋）	11
6 点検結果及び中間報告一覧	14

2018 年 11 月
市原市

1 実施結果の概要

(1) これまでのスケジュール

	・ 取組方針の策定（前年度中）
5 月	・ 実施要領の策定、無作為抽出の市民へ案内発送
6 月	・ 行政改革推進本部、行政改革推進委員会の開催 ・ 点検事務事業を選定、事業シートの書き方研修、市民点検員を決定及びテーマ希望調査
7 月	・ 市民点検員研修、説明員 ^{※1} 質問力・対話力向上研修 ・ 市民点検実施（1 日目：7 月 29 日）
9 月	・ 市民点検実施（2 日目：9 月 24 日） ※台風の影響により 7 月 28 日分を延期して実施

(2) 点検結果

実施日	事業数	ちょっと待った！ （廃止・凍結）	もう一步！ （要改善）	いいね！ （継続）
7月29日（日）	18	0（0%）	9（50%）	9（50%）
9月24日（月・振休）	18	0（0%）	9（50%）	9（50%）
計	36	0（0%）	18（50%）	18（50%）

(3) 点検従事者数

項目	1 無作為抽出点検員	2 OB・OG点検員 ^{※2}	3 高校生	計
案内状発送	2,500 ^{※3}	127	・千葉県立京葉高等学校 ・東海大学付属市原望洋高等学校	
応募者（応募率）	73（2.9%）	46（36.2%）	12	131
研修 （参加率=研修/応募者）	51（69.9%）	37（80.4%）	11（91.7%） ※個別説明	99（75.6%）
市民点検 （参加率=点検/応募者）	上段 7/29 32 下段 9/24 17	21 17	6 5	59 39
	49（67.1%）	38（82.6%）	11（91.7%）	98（74.8%）

■市民点検参加者 内訳

性別	人数	割合
男性	49	50.0%
女性	49	50.0%
合計	98	100.0%

■市民点検 傍聴者数

63	7月29日（日）24人、9月24日（月・振休）39人
----	----------------------------

年代	人数	割合
10代	16	16.3%
20代	13	13.3%
30代	4	4.1%
40代	15	15.3%
50代	18	18.4%
60代	18	18.4%
70代	12	12.2%
80代	2	2.0%
合計	98	100.0%

※1 説明員＝市の担当課職員

※2 OB・OG点検員＝前回の点検にも参加した市民点検員

※3 18歳以上の市民を無作為に抽出して案内状を発送

2 中間報告の取りまとめ結果

事務事業の見直しにあたっては、調整等も必要なため、本年10月に「中間報告」、2019（平成31）年3月に「最終報告」と2段階に分け、取りまとめて公表します。

(1) 中間報告

中間報告では、「検討の方向性」と「担当職員の得られた気付き」を報告します。

ア 「検討の方向性」

「検討の方向性」は、点検結果が「ちょっと待った！（廃止・凍結）」（0事業）及び「もう一步！（要改善）」（18事業）となった事務事業を対象に、以下の3区分から選択しました。

(ア) 次年度の予算編成の中で検討する

次年度以降、すぐに検討できるもの。予算事業であり、次年度から廃止するもの、事業費の見直しをする場合など。

(イ) 実行計画の中で検討する

実行計画に位置付けるもの。例えば、事務事業を見直し、新しい事務事業として立ち上げる場合など。

(ウ) 行財政改革アクションプランⅡの中で検討する

アクションプランⅡに位置付けるもの。例えば、事務事業の主体や実施方法を見直したり、相手側との協議が必要で複数年かかる場合など。

アクションプランⅡの実施期間（2021年度まで）に実施する。

点検結果	検討の方向性			
	予算編成	実行計画	行財政改革 APⅡ	総計
ちょっと待った！（廃止・凍結）	0	0	0	0
もう一步！（要改善）	3	1	14	18
合計	3	1	14	18

イ 「担当職員の得られた気付き」

主体的な改革改善に繋げていくための契機として、“気付き”を得ることが大切であることから、点検を行った全ての事務事業を対象に、「担当職員の得られた気付き」を併せて取りまとめました。

※詳細は、P14の点検結果及び中間報告一覧のとおり

(2) 最終報告

今後、各担当課では、中間報告の「検討の方向性」、「担当職員の得られた気付き」に基づき、庁内及び庁外調整を経て、具体的な見直し方法等を最終報告としてまとめます。なお、最終報告は、2019（平成31）年2月に（案）を公表し、3月に確定版として報告します。

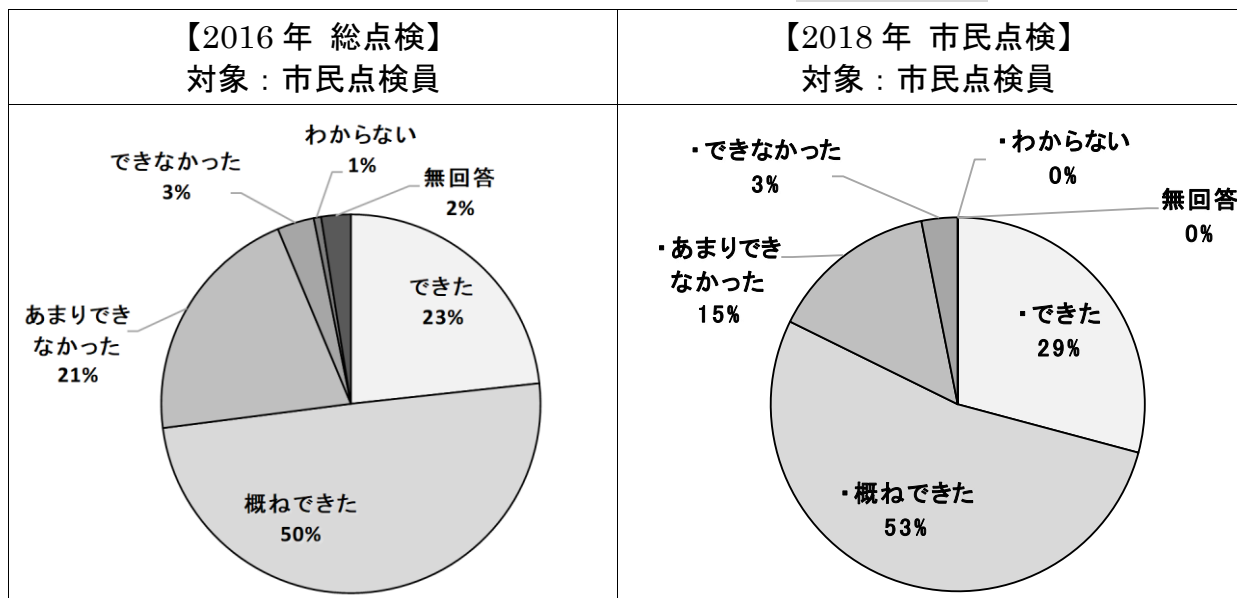
(3) 今後のスケジュール

10月	・各担当課へ点検結果等をフィードバック → 中間報告の照会・取りまとめ ・行政改革推進本部、行政改革推進委員会へ中間報告（HPで公表）
11月	} 中間報告を踏まえ、最終報告を検討
12月	
1月	
	・最終報告の照会
2月	・最終報告のとりまとめ
3月	・行政改革推進本部、行政改革推進委員会へ最終報告（HPで公表）

3 アンケート結果について

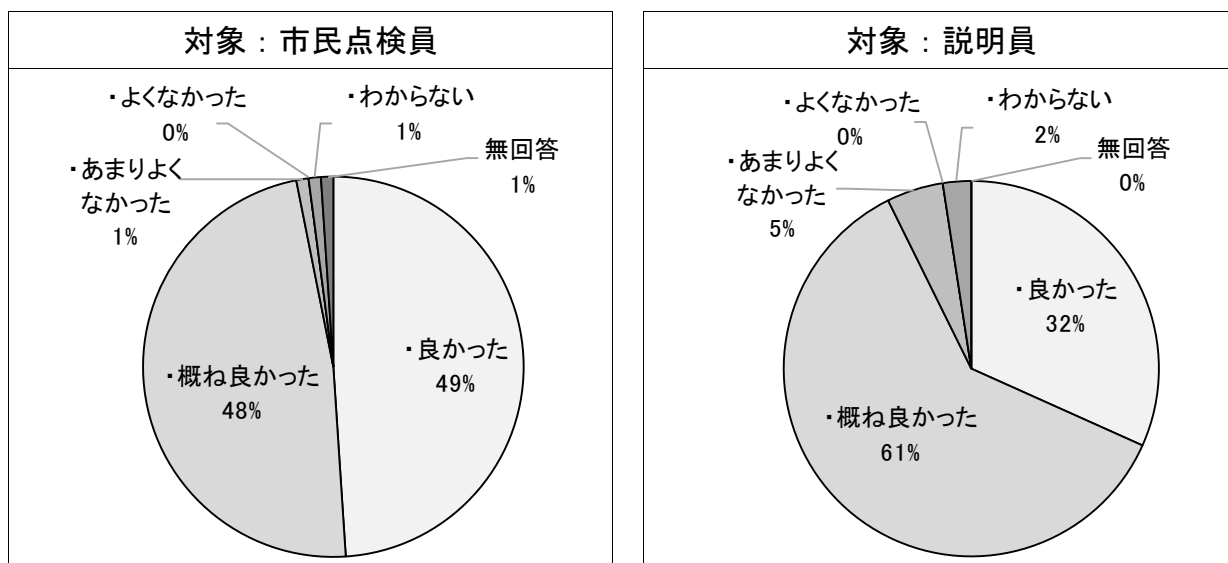
(1) 市民点検員について

① 市民点検員として思ったとおりの質問ができたか <<前回比較>>



市民点検員に対し「思ったとおりの質問ができたか」という問いを設定したところ、今回の市民点検（右グラフ）では、「できた」が29%、「概ねできた」53%と高い自己評価が見られました。また、2016年に実施した市民点検の総点検（左グラフ）と比較すると、「できた」が6%、「概ねできた」が3%上がり、「あまりできなかった」が6%下がったことから、前回よりも点検の対話がより活性化していたことが伺える結果となりました。

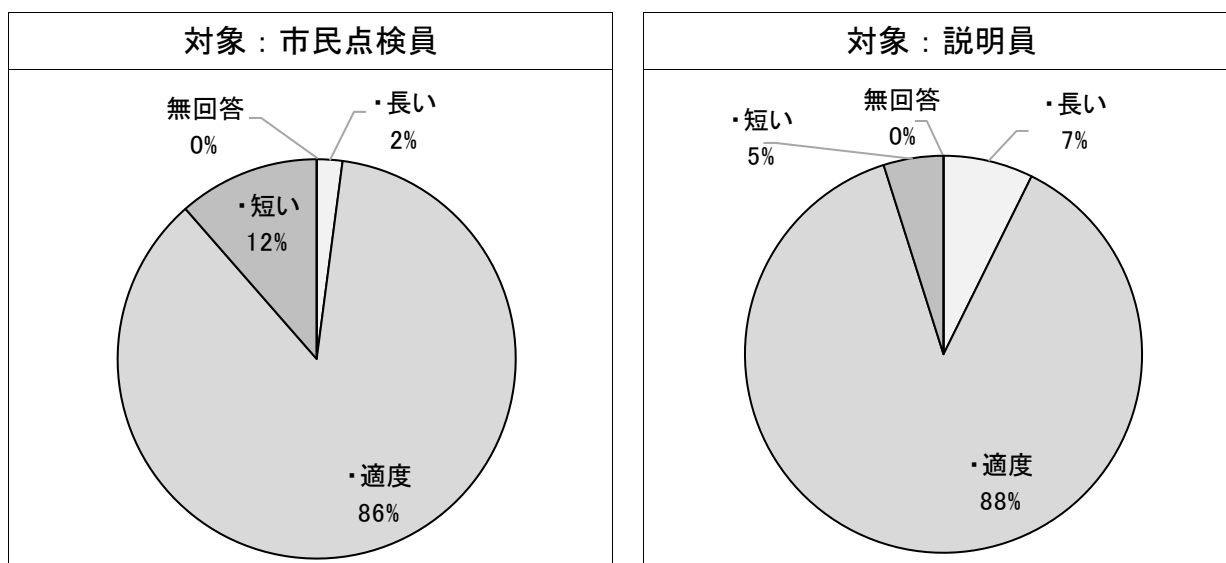
② 市民点検員の質問についてどうだったか



点検員の質問に対しての設問では、点検員からは、他の点検員に対して「良かった」が49%、「概ね良かった」が48%と回答しており、非常に高い評価となりました。

また、説明員からは、「良かった」が32%、「概ね良かった」61%と回答していることから、対話の相手側からも高い評価を得ることができました。

③ 質疑の時間

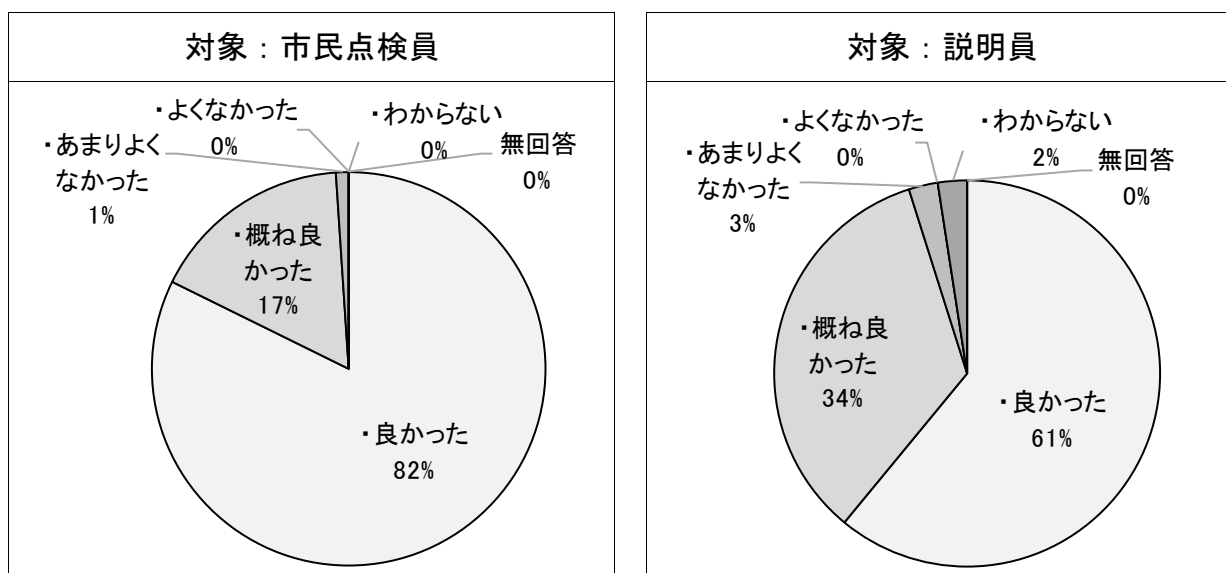


点検員の人数が多い組があったことによる時間的な制約から、質問時間についての問いを設定したところ、点検員及び説明員からは、多数の方が適度と回答しており、十分な対話が行えたと考えられる結果が出ました。

なお、最初の自己紹介と最後の感想を発言し合う時間を点検時間に含めてしまうと、一人ずつの発言機会が少なくなってしまうという意見もあったため、次回以降は点検時間とは別枠で設定できるよう検討します。

(2) コーディネーターについて

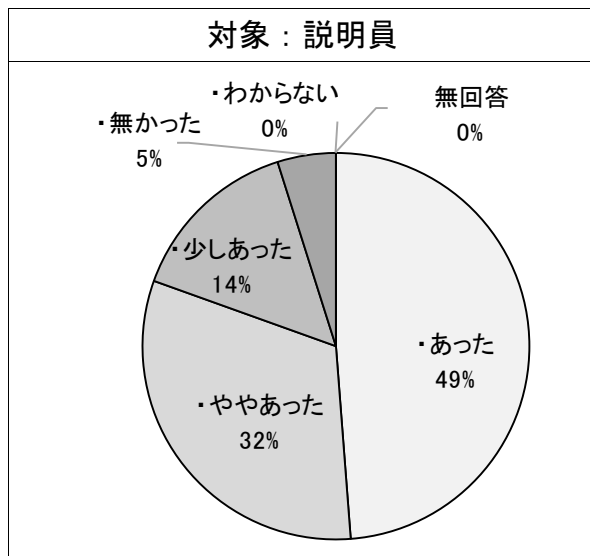
① コーディネーター（司会者）の進行



構想日本から派遣されたスタッフがコーディネーターを務めました。コーディネーターについての設問では、点検員からは、「良かった」が82%、「概ね良かった」が17%と合計で99%が良い評価をしており、説明員からも「良かった」が61%、「概ね良かった」が34%と合計で95%が良い評価であり、コーディネート力の高さが分かる結果が出ました。

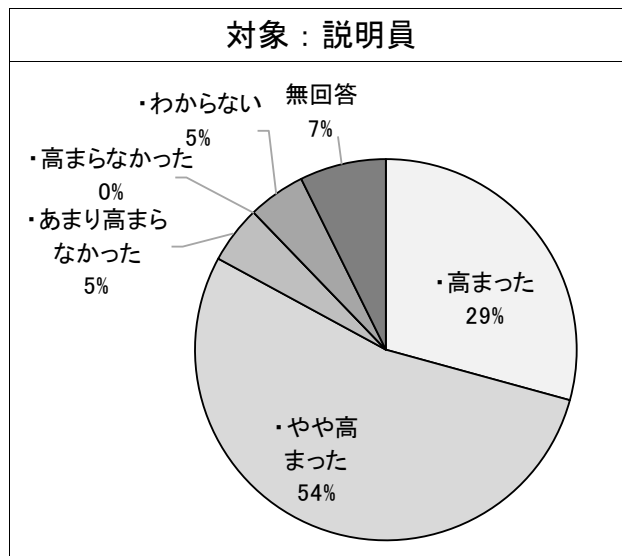
(3) 説明員(市の担当課職員)について

① 市民点検による気付き



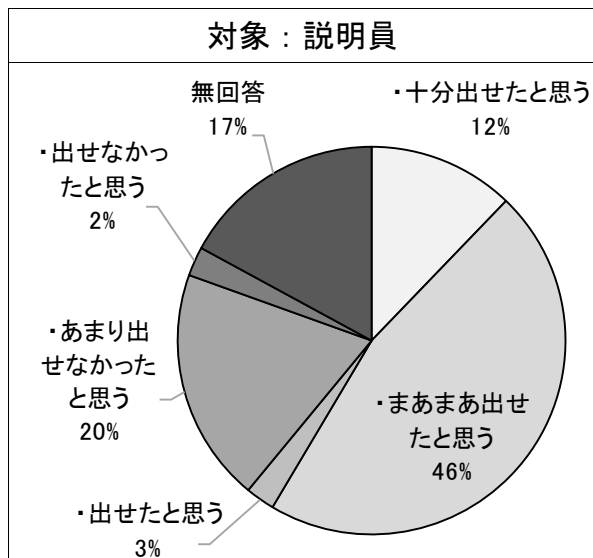
職員の意識改革につながる「気付き」についての問いを設定したところ、95%の説明員が「あった」「ややあった」「少しあった」と回答しており、多くの気付きを得られたと考えられる結果が出ました。

② 市民点検による改革意欲



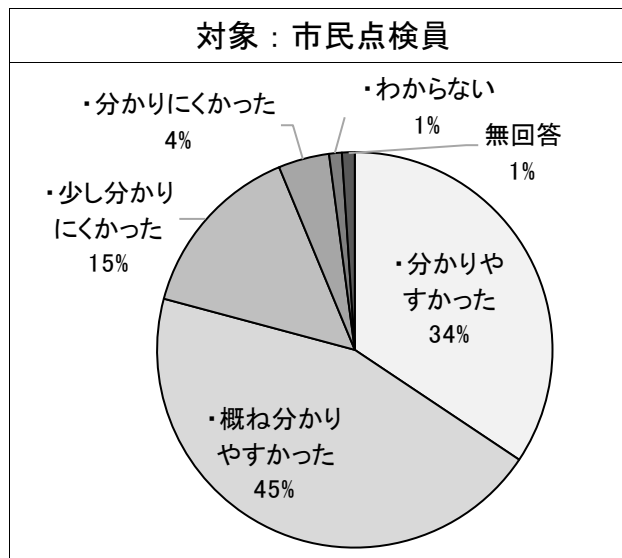
一方で、改革に向けた意欲が高まったかという問いに対しては、「高まった」が29%、「やや高まった」が54%であり、気付きを改革・改善につなげる仕掛けが必要であるという結果が得られたことから、次回以降の研修の課題として検討していきます。

③ 説明員研修の成果が出せたか



説明員研修として、点検当日に担当するコーディネーターと直接、論点整理を行いました。点検において、その事前研修の成果が出せたかという設問を設定したところ、61%の説明員が「十分出せたと思う」「まあまあ出せたと思う」「出せたと思う」と回答しました。

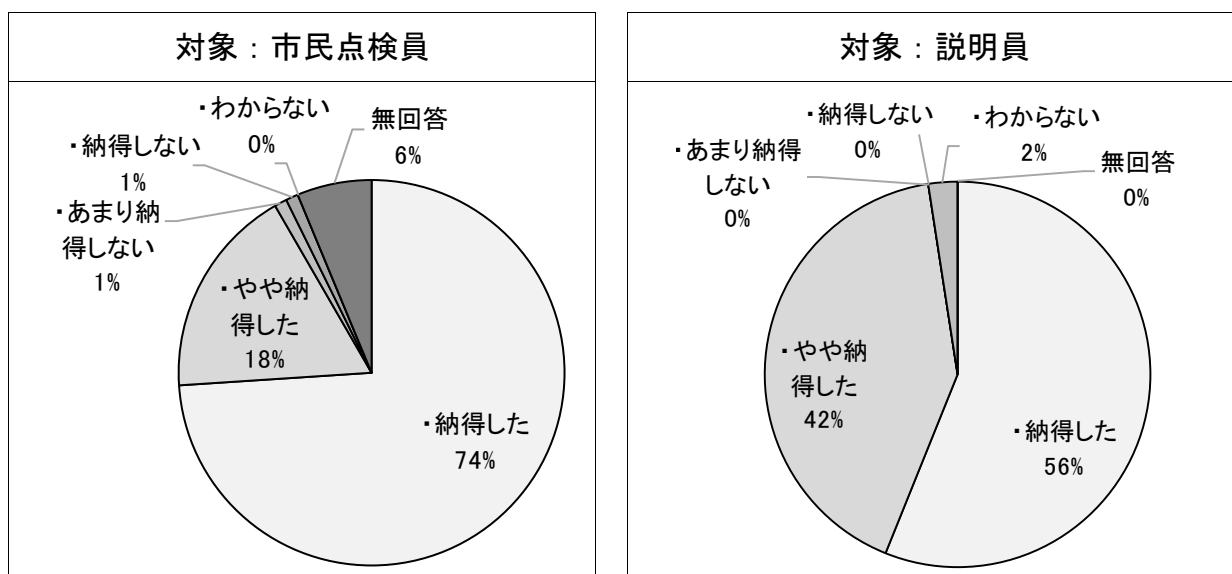
④ 説明員の説明力(分かりやすかったか)



点検員から見た説明員の説明力については、79%の点検員が「分かりやすかった」「概ね分かりやすかった」と回答しました。

以上のことから、研修については、一定の成果はあったものの、次回以降は、研修の効果をより高める工夫が必要であるという結果となりました。

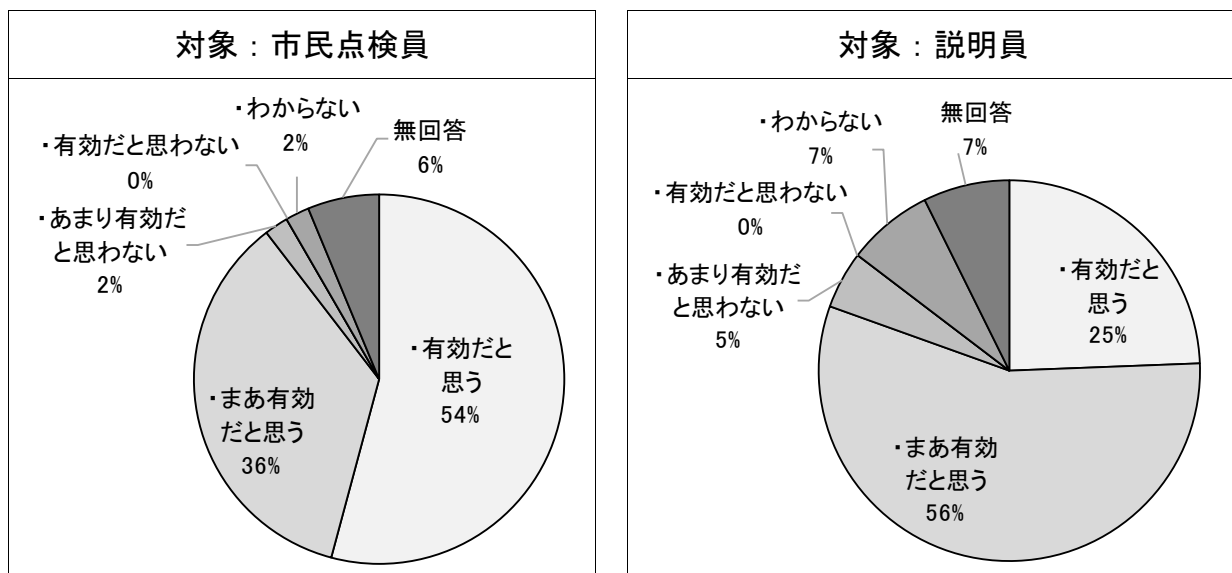
⑤ 点検結果の納得性



「気付き」があったとしても、結果に「納得性」が無いと改革改善に結びつく可能性が低いことから、点検結果への納得性について設問を設定したところ、点検員は、「納得した」「やや納得した」という回答が合わせて92%、説明員においては、「納得した」「やや納得した」を合わせて98%という高い数値であり、今後、市政への反映が期待できる結果が出ました。

(4) 市民点検の有効性

① 点検の有効性



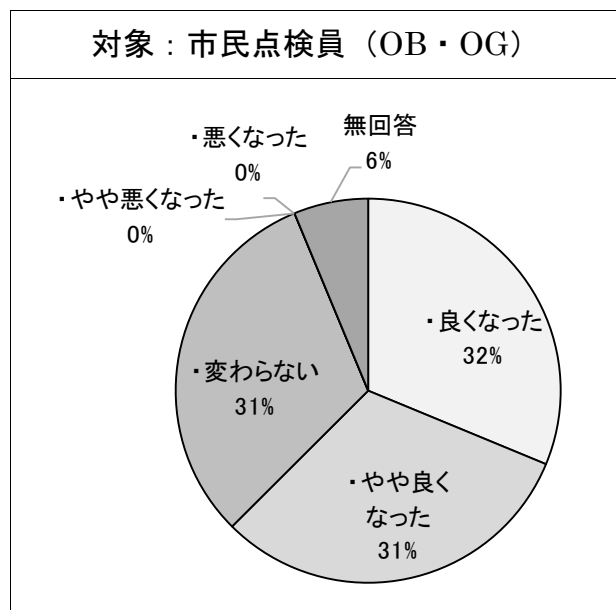
「今回の市民点検が行政改革の手法として有効だと思うか」という設問に対して、点検員は、「有効だと思う」が54%、「まあ有効だと思う」が36%で合計90%が有効と回答しており、市民点検に寄せる期待の高さと、有効性の評価へつながる結果となりました。

また、説明員は「有効だと思う」が25%、「まあ有効だと思う」が56%で合計81%が有効と回答しており、先の設問にある「気付き」や「納得性」とも整合される結果が出ました。

以上のことから、市民点検が行政改革の手法として、一定の有効性があると認められる結果となりました。

(5) OB・OG 点検員による前回比較

① 2016 年の総点検と比べて、2018 年の市民点検はどうだったか《前回比較》



2016 年の総点検にも参加している OB・OG 点検員に対して、今回の市民点検と比較する設問を設置したところ、「良くなった」「やや良くなった」を合わせて 63%、「変わらない」が 31%、悪くなったという回答はなかったことから、点検自体の改善も図ることができているという結果となりました。

具体的な意見は以下のとおりです。

■改善されていた点

- ・ コーディネーター、点検員、説明員ともにこの企画に慣れてきて進行がスムーズになったと思った（他 3 件）。
- ・ 各点検員が自分の意見を言える環境が整っていた。意見が言いやすかった（他 2 件）。
- ・ 説明会で顔合わせができたことで、少し話しやすさが増した。
- ・ 前回に対して人数（点検員）が多くなり、色々な年代の方が増えたのはとても良い（他 1 件）。
- ・ 全体的に要領よく運営できていたと思います。
- ・ 事業シートが見やすくなりました。
- ・ 説明資料が良くなった。
- ・ コーディネーターが良かったので、考えなければならないポイントが整理されて良かった。

■課題点

- ・ 点検員が多くて一人ひとりの発言の機会が少なくなったことと、点検員の人数とも関係して、議論の時間が 1 時間では必ずしも議論が深まらないものがあつた。
- ・ 全体の進め方は良いが、判定シートの改善提案の自助、共助、公助の記入が難しかった。

(6) 市民点検員及び説明員の自由記述項目 ～意見・要望等～

ア 市民点検員の意見

市民点検員へのアンケートで設定した自由記述項目では、市民点検の継続を希望する意見など、多くの御意見、御要望をお寄せいただきました。

主なものは、以下のとおりです。

(ア) 点検内容等に関する意見

- ・ 3つの事業は、少しボリュームが多いのでは？2つの事業で1事業90分くらいがちょうど良いと思う（他1件）。
- ・ データの根拠（何故増えたのか、減ったのか等）を示していただけるともっと良く理解できると感じた（他1件）。
- ・ 改善提案が書きにくかった（他1件）。議論の中でよい意見が出ているので、市でまとめるだけで良い。
- ・ 一番最初の説明をもう少しゆっくりやって欲しいです。
- ・ 判定結果、区分が不十分。「もう一步」、「いいね」の間に、「いいね（改善点あり）」が必要では。
- ・ 意見質問等は、挙手性ではなく、1人1人話ができると良いと思う。
- ・ 短時間で議論し判断していかなくてはいけないので、資料（特に補足資料や表）の作り方を分かりやすくして欲しい。
- ・ 説明員の方も指摘されるであろう事は、しっかり説明できるように願いたい。
- ・ 同じ課の案件を続けて点検したくありません。3事業とも、別の課でお願いしたいです。

(イ) 市民点検員に関する意見

- ・ もっと多くの人を点検員として参加してもらいたい（他2件）。
- ・ OB・OG点検員は3回目の参加はしない方が良い（他1件）。
- ・ また機会があれば参加したいです。
- ・ 1つのテーマに対して、時間をとって市民の参加数を多くした方が良いと思う。
- ・ 若い人の意見が必要と思われる。若い人の参加をお願いします。
- ・ 無作為抽出でありながら、OB・OG点検員の数が多いので、圧力を感じた。
- ・ 高校生の方には難しいことが多いので、意欲がある方や知識がある方など選定した方が良いと思う。

(ウ) 市民点検全般に関する意見

- ・ 市民点検は、市民が行政に意見や考えを伝えることができる貴重な機会ですので、今後も続けていただきたいと思います（他6件）。
- ・ とても有意義な時間となりました。市としての事業を見直すと共に、私たちの無知（市の事業に対する理解）を強く感じております。自己を振り返る良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 広い視野の意見を取り込むことによって、より市民に近い活動に結びつくものと思います。一人でも多くの市民が活動に加わる事、それ以前に知る事（アピールすること）が重要だと感じました。
- ・ 我々の意見が市原市に伝わり、市原市が日本一の「市」になればと思います。
- ・ 市で取り組んでいる事業がとてもきめ細やかなのに驚き、今後利用させていただきます。
- ・ 参加してみて、自分自身が利用したい事業もあるし、周囲の人々にもこの様な事業がある事をPR したいと思います。
- ・ 参加を通じて、市や行政の方への理解や好感が増しました。
- ・ 季節的に夏にいつも実施しているのでしょうか。今年は特に暑く、自分の仕事に加えて、資料を読み、問題点を拾い出すのは大変で十分できませんでした。
- ・ 前回点検に参加した事業に関連したものがあれば、引き続き参加したいと思うので、意見を提出できるチャンスがあればと思いました。
- ・ この点検に対しての税金の使われ方はどうなのか。
- ・ お礼はお茶 1 本でも良い。

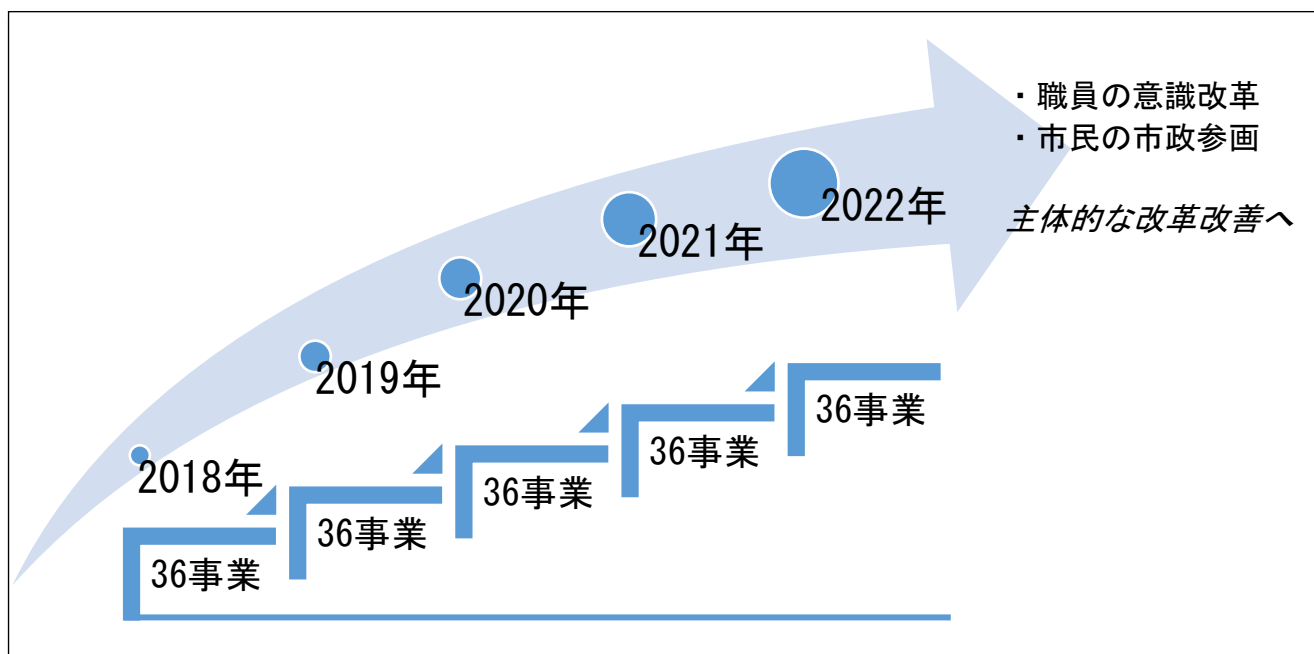
イ 説明員の意見

説明員へのアンケートで設定した自由記述欄に寄せられた主な意見は、以下のとおりです。

- ・ 午前と午後で 1 日 6 事業の点検スケジュールであったが、やや時間が足りない印象であったため、午前 2 事業、午後 2 事業くらいがよいのではないか。
- ・ 延期となった上での実施のため、数値等にややタイムラグがあったので、今後、予備日を含め日程調整が可能であればと感じた。
- ・ 対象事業の選び方をもう少し考えた方が良いと思います。
- ・ 気付きを得るという意味では効果があるが、準備の時間等が多く発生しており、書類作成期間を十分に設けてほしい。

4 次年度以降の市民点検について

事務事業の市民点検については、今年度から5年かけて（2018～2022年）実施していく予定です。計画的に実施するため、市原市総合計画に掲げる施策を単位としてテーマを設定し、各テーマに紐づく事務事業の中から事業選定を行います。



都市像 夢つなぎ ひときらめく 未来創造都市 いちはら ～ひとの活躍が新たな誇りを創るまちへ～

人口**27**万人の維持と**500**万人の交流へ 誰もが住みやすく 活躍できる 魅力あふれるまちづくり

【若者・女性の転出抑制】 【出生数の増加】 【愛着と誇りの醸成】 【魅力創出】

2026年のいはらの姿実現へ **44**の施策

1. 産業と交流の好循環が新たな価値を創るまちへ 【産業経済・交流】	2. つながりと支え合いがひとと地域を健康にするまちへ 【コミュニティ・福祉・健康】	3. ひとの活躍と豊かな生活を支える安心・安全なまちへ 【都市基盤整備・安心安全】	4. 子どもたちの輝き・若者の夢・いはらの文化を育むまちへ 【子育て・教育・文化】	5. ひとが環境を守り活かすまちへ 【環境】
働きたくなるまち 1. 臨海部工業の競争力強化 2. 中小企業の経営力向上と起業・創業促進 3. 雇用機会の拡大 4. ビジネス機会の創出	地域とつながり健康になれるまち 1. 地域団体による活動への支援 2. 健康寿命の延伸	住み続けたくなるまち 1. コンバクト・プラス・ネットワークの推進 2. 暮らしやすい住環境の創出 3. 主要な道路の整備・維持 4. 水の安定供給と汚水処理の推進	子どもを産み育てたくなるまち 1. 少子化対策と子育て支援の充実 2. 確かな教育の推進 愛着と誇りを育むまち 3. 生涯学習の充実 4. 文化の継承と創造 5. 魅力あるスポーツ資源の活用	資源を有効に使うまち 1. 自然エネルギー等の有効利用 2. 資源循環による新たな価値の創出
新たな魅力を創出するまち 5. 農林業の活力向上 6. 地域資源を活用した観光まちづくり	ふれ合い支え合うまち 3. 地域福祉の推進 4. 高齢者への支援 5. 障がい者への支援	安心・安全なまち 5. 危機管理の強化 6. 消防体制の充実 7. 医療・救急体制の強化 8. 交通安全と防犯力の向上	多様性を認め合うまち 6. 多文化共生社会の実現 7. 人権の尊重・男女共同参画社会の確立	自然とともに生きるまち 3. クリーンな環境の保全 4. 自然との共生

A 都市創生戦略

1. 中心都市拠点
2. 都市拠点
3. 地域拠点
4. インターチェンジ周辺
5. 豊かな自然が広がる地域
6. 交通ネットワーク

B 広域連携戦略

1. 市域を越えた連携

C 自治体経営戦略

1. 市民本位の行政経営
2. 地域主体のまちづくりの推進
3. 総合計画を中心とした行政運営
4. 公共資産マネジメントの推進
5. シティプロモーションの推進
6. 人材育成の推進
7. 情報化の推進

出典：市原市総合計画『変革と創造 いちはらビジョン2026』基本計画の概要 計画期間：2017～2026年度

5 参考：事務事業の市民点検 実施マニュアル(抜粋)

(1) 目的

ア 持続的な改革・改善の仕組みを構築

総合計画に掲げる施策を実施するためには、行政の生産性を高め、より効率的で実効性の高い行政経営を進める必要があります。そこで、計画・予算・改革のトータルシステムの中に持続的な改革・改善の仕組みを組み込みます。

イ 対話による改革・改善の推進

(ア) 職員の意識改革の推進

各職場において、徹底した対話を通じて、組織の使命、事務事業の目的・原点に立ち返り、成果を検証することで、次なる改革・改善につなげる変革と創造の組織文化を創り上げます。

(イ) 市民参画の推進

市民点検を通じて市の課題を改めて自分事化するなど、積極的な情報公開と市民参画を促進し、市民本位の行政経営を推進します。

(2) 点検の基本的な考え方

市が行う事務事業は、内容が目的達成の最適な手段となっているか、常に原点に立ち返り不断の見直しを行い、主体的な改革につなげる必要があることから、市民との対話により点検を行います。

点検の結果は、市民点検を実施した成果が目に見えるよう、次年度予算編成、実行計画、行財政改革アクションプランの見直し等に反映させていきます。

なお、点検の結果は、拘束力を持つものではありませんが、外部評価及び客観的評価として尊重し、説明責任を果たす必要があることから、点検結果及び反映結果は（反映できない場合は理由も付して）全て公開します。

(3) 点検の実施

ア 対象事務事業の選定

市原市総合計画に掲げる「政策－施策」を単位に点検テーマとし、1テーマにつき、3～6の事務事業を点検するものとし、全36の事務事業を選定しました。

イ 点検体制

(ア) 1会場ごとの点検体制

コーディネーター	1名	第三者の学識者（構想日本のスタッフ）
市民点検員	7～9名	市内在住18歳以上の無作為抽出による市民5名 2016(平成28)年度の総点検参加者（OB・OG） 及び市内高校・大学生 2～4名
説明員	2～3名	担当課長等

(イ) 事前研修会の実施（実績）

点検を効果的に行うため、構想日本の支援を受け、市民点検員に対しては 1 回、説明員に対しては合計 3 回の事前研修を実施しました。

研修名	対象	実施日	参加人数	内容
市民点検員研修	市民点検員	7/8	88	点検の意義と概要、模擬点検等、グループ別学習
事業シートの書き方研修	説明員	6/18	33	事業シートに関する説明（※自主運営）
説明員質問力向上研修		7/9	49	点検の意義と概要、模擬点検
説明員対話力向上研修		7/10	53	コーディネーターとの論点整理

ウ 点検方法と判定

(ア) 1 事業の点検方法

事業説明	役割：説明員 市民点検用説明シート及び事業シートに基づき、説明員が行いました。 事業の要点や補足事項について、簡潔に説明	10 分		
	役割：コーディネーター・各点検員 対話が促進されるよう、コーディネーター（構想日本スタッフ）が進行を行いました。 事業内容や実績等について、質疑を行い、事業の在り方、実施方法等について対話を行いました。	40 分		
判定	役割：コーディネーター・各点検員 対話を行った結果、判定シートを用いて結論を出し、結果及び内訳を公表しました。 市民と職員が対話を通じて一緒に考え、自由な雰囲気の中で新たな発想を生み出すため、今回から判定区分をやわらかい表現へ見直しています。	10 分		
	<table><tr><th>判定区分</th></tr><tr><td>ちょっと待った！（廃止・凍結）</td></tr><tr><td>もう一歩！（要改善）</td></tr><tr><td>いいね！（継続）</td></tr></table> なお、結果以外にも各点検員の意見は判定シートへ記入し、その内容を担当課へ回付しました。		判定区分	ちょっと待った！（廃止・凍結）
判定区分				
ちょっと待った！（廃止・凍結）				
もう一歩！（要改善）				
いいね！（継続）				
※時間は目安であり、点検内容によっては時間の増減あり		計 60 分		

※市民点検員には、半日単位の参加で 1,000 円の図書カードを進呈（事前研修参加も含む）

(イ) 判定結果の論点(キーワード)

事務事業の担当課が、改革・改善を具体的に進めていくため、判定のポイントとなった論点（キーワード）をコーディネーターがまとめました。

(ウ) 改善提案方式

点検を通じて市民に市政を自分事化してもらうため、今回から、判定に加えて、改善提案方式を取り入れました。自発的な意思により、それぞれの役割で何ができるか、自助・共助・公助の視点から提案し、判定シートに記入していただきました。

《改善提案のイメージ》

判 定		もう一歩！（要改善）
改 善 提 案	私は、	〇〇〇〇 したい。 します。
	私たちは、 地域では、	△△△△△△△ したい。 しようと思う。
	市は、	□□□□□□□ して欲しい。 したらよいと思う。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

■点検結果が「もう一步！（要改善）」、検討の方向性が「予算編成」となったもの（3事業）

No	事務事業名	部署名	【点検結果】					判定のポイントとなったキーワード	【中間報告】	
			判定	ちょっと待った！（廃止・凍結）	もう一步！（要改善）	いいね！（継続）	参考 コーディネーター判定		検討の方向性	担当職員の得られた気づき
1	掲示板設置補助事業	市民活動支援課	もう一步！（要改善）	0	8	1	もう一步！（要改善）	・町会に入っていない人に町会活動を推進する。 ・掲示内容工夫（防災・重要事項）が必要 ・場所、個所数の効率的な配置を検討	予算編成	・掲示板があることを知らない市民の方からも、補助金の必要性を理解いただけた。 ・町会における掲示板的利活用について、市から参考例、好事例などを発信していきたい。 ・非木造が多くなったことで、建て替えだけでなく修繕に対する補助も検討していきたい。
2	文化振興事業（美術鑑賞ツアー）	ふるさと文化課	もう一步！（要改善）	0	7	0	ちょっと待った！（廃止・凍結）	・ターゲット設定 応募者数も参加者数も少ない。予算などの制約があることから、ターゲットを絞り込んだ事業展開もあるのではないかと。定員増についても一考が必要 ・その他の改善提案 学校授業の一環として考えてはどうか。開催日の設定に工夫が必要。 ・コストの適正化 市バスの活用など、より一層のコスト削減を考えるべき。	予算編成	・目的（多くの市民の方々を対象）と実施内容（大人限定となる平日開催かつ定員40人）が合致していないことが分かった。 ・市民の方々は、県内の美術館を見ることでも目的が達成できるという考えを持っていることが分かった。
3	美術作品巡回展示事業	ふるさと文化課	もう一步！（要改善）	3	4	0	もう一步！（要改善）	・機会の不平等がないか？ 4年間ですべての小学校を回っても、この事業に触れることのできない生徒が出る。何か工夫が必要。 ・効果的な事業になっているか？ 版画という展示内容について子供たちの意見・反応を把握し、その反応を踏まえて展示内容を改善すべきである。コストについて改善すべきである。	予算編成	・現在の実施方法は、全小学生が体験できず不平等であることが分かった。 ・1校実施するに当たり、989千円の費用がかかることに對してコストの面から改善が必要と認識した。 ・小学生に版画は難しく展示作品を考え直す必要があると気付いた。

■点検結果が「もう一步！（要改善）」、検討の方向性が「実行計画」となったもの（1事業）

No	事務事業名	部署名	【点検結果】					判定のポイントとなったキーワード	【中間報告】	
			判定	ちょっと待った！（廃止・凍結）	もう一步！（要改善）	いいね！（継続）	参考 コーディネーター判定		検討の方向性	担当職員の得られた気づき
4	町会集会施設整備事業	市民活動支援課	もう一步！（要改善）	0	7	2	もう一步！（要改善）	・補助金支出後の利用状況の検証（納税者・市民へ説明）が必要	実行計画	・施設の利用状況（内容・回数）の把握が必要であるとの意見が大半であった。 ・補助金の必要性は理解を得られたと思う。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

■点検結果が「もう一步！（要改善）」、検討の方向性が「行財政改革APⅡ」となったもの（14事業）

No	事務 事業名	部署名	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	内訳			参考	判定のポイントとなった キーワード	検討の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと 待った！ （廃止・凍 結）	もう一 歩！ （要改善）	いい ね！ （継続）				
5	公用車の 活用	総務課	もう 一歩！ （要改善）	0	9	0	もう 一歩！ （要改 善）	・予約と実態の乖離を解 消することが必要 予約システムを解除、鍵 の返却、特に入力変更す るなど ・2年前の点検結果の改 善も優先実施 ・40台だけでなく300台の 管理をするように見直す。 総務課の守備範囲を広げ る。 ・ピーク時がどのくらいあ るかの分析も必要	行財政 改革 APⅡ	・2年前の総点検からの進 捗を踏まえ、改善のスピ ードを上げて取り組む必要 性を改めて認識した。 ・予約システムを改善し、 予約と実態との乖離を解 消することが、最優先で取 り組むべき改善項目であ るという認識を得た。 ・事業の目的は「職員に限 られた公用車を効率よく使 えること」であり、「稼働率 の向上」に囚われすぎると 目的から逸れることに注 意が必要である。
6	ワークラ イフバラ ンス推進 事業	人事課	もう 一歩！ （要改善）	0	6	5	もう 一歩！ （要改 善）	・女性の管理職の育成の プログラム 早い時期からの意識を 持ってもらうための研修や 日々の取り組みが必要 ・仕事の進め方改革 意識付けだけでなく、やる ことを減らす努力、いかに 質を落とさずに進めるか	行財政 改革 APⅡ	・女性管理職の育成につ いて、積極的に取り組んで いく必要がある。 ・事務量の見直しを行い、 国の政策ともいえる働き 方改革を実現していく必 要がある。
7	Off-JT （職場外 研修）の 推進事業 OJT（職 場研修） の推進事 業	職員研 修所	もう 一歩！ （要改善）	0	7	4	もう 一歩！ （要改 善）	・成果の捉え方 市民に対する成果（業務 遂行・コミュニケーション能 力⇒市民満足度）と、行 政内部に対する成果（政 策形成・行政経営能力⇒ 人事評価）で分ける。 ・人事評価については、中 間チェック体制、管理職試 験の検討 ・研修の全体像の把握 特別研修を含め、研修の 全体像をより把握する必 要がある。	行財政 改革 APⅡ	・職員の能力開発のため の研修経費について、市 民の方々から理解を得ら れていることが認識でき た。 ・研修の成果検証の必要 性を改めて認識した。
8	マイナン バー普及 啓発事業	情報管 理課	もう 一歩！ （要改善）	0	7	2	もう 一歩！ （要改 善）	・取得者の市内・市外・在 勤者等、現状の取得状況 の把握と、なぜ申請しない のか、分析が必要 ・まずは公務員への普及 ・「全国足並みをそろえる」 からの脱却 ・市民点検を機に例えば 今後2年間は重点期間に するなどの工夫が必要	行財政 改革 APⅡ	・今後の事業展開にあた り、まずは現状把握と分析 が必要であると改めて感 じた。 ・一般市民への周知・啓発 だけでなく、まずは職員に 対する働きかけを行うこと が啓発の契機になる。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考 コーディネーター判定	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)				
9	市民公益活動支援補助事業	NPO・ボランティア支援室	もう一歩！ (要改善)	0	9	0	もう一歩！ (要改善)	・公益活動を客観的に把握する。 ・納税者(市民)を意識する(この事業の受益者でなくても納税者である) ・ありがたい姿を明瞭にする(公益活動とは何なのか、自分の言葉で説明できるように) ・使い勝手の工夫をする。	行財政改革 AP II	・「市民活動」に対する市民の方々の認知度が、思っていたより低かった。 ・当該事業について、市民の方々の中で知っている人がいなかった。 ・当該事業の制度内容が分かりづらい。
10	がん検診事業	保健センター	もう一歩！ (要改善)	0	5	1	もう一歩！ (要改善)	・受診率等数値データについては、分かりやすさが必要 ・気軽に受診できるような手続きの工夫、改善 ・周知方法の検討が必要	行財政改革 AP II	・がん検診事業が、市民の方々において、より身近になり理解していただけるよう、周知方法に工夫が必要であることを認識した。 ・検診を円滑に受診していただけるよう、実施方法の改善に向けて、継続して検討を行っていくことが必要であると認識した。
11	電子親子手帳サービス事業	子育てネウボラセンター	もう一歩！ (要改善)	0	9	1	もう一歩！ (要改善)	・周知方法 どうしたら情報が得られるのか、当事者以外にも周知することで、当事者にアドバイスできる。利用が広がるのではないかな。 ・サービス水準 基本的なことを知らせるだけで良いのではないかな。市民が自ら対応できるもの、家族記録などは自分でやればよい。結果的にコストに跳ね返っている。 ・改善努力 システムをもっと良くするというような努力も必要ではないかな。	行財政改革 AP II	・祖父母世代など、当事者(子どもの父母)以外への周知については、経費の点などから、これまであまり目が向かないところだった。 ・思った以上に事業の認知度が低かった。 ・利用者の生の声を聴いていなかった。
12	バイオマス利活用事業	環境管理課	もう一歩！ (要改善)	0	5	0	ちょっと待った！ (廃止・凍結)	・目的の変更(温室効果ガスの排出削減の目的としては限界がある)が必要ではないかな ・時限設定が必要 ・他市との連携を検討	行財政改革 AP II	・バイオマス利活用事業は、他部との連携が必要である。 ・破碎機の活用事業の有用性は認められるものの、当初の目的から里山保全へ移っている現状がある。 ・指摘があった破碎機利用の目的変更については、部内で整理し関係部署などとも協議して決定したい。
13	中小企業基盤強化促進事業	商工業振興課	もう一歩！ (要改善)	0	4	1	もう一歩！ (要改善)	・成果の捉え方の見直し(生産額の変化など)が必要 ・(研修)ターゲットの見直し(絞り込み)が必要	行財政改革 AP II	・事業目的を踏まえると、事業実施後に各企業の売上や生産額の増加などが図られたかが事業成果としては適切であることから、見直しを検討する必要がある。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)				
14	中小企業金融対策事業(預託)	商工業振興課	もう一歩！ (要改善)	0	3	2	もう一歩！ (要改善)	・投資効果の見える化の検討 ・融資実績の目標値 ・預託金の設定の見直しが必要	行財政改革 AP II	・事業目的を踏まえると、融資等を実施したことにより、企業が継続して操業ができているか(倒産していないか)が事業成果としては適切であることから、見直しを検討する必要がある。
15	狭あい道路後退用地整備事業	土木管理課、南部土木事務所、道路維持課	もう一歩！ (要改善)	0	9	1	もう一歩！ (要改善)	・市民の安全、災害に強いまちづくり、市役所の主体性が必要 ・良好な生活環境の実現	行財政改革 AP II	・市民の方々の制度そのものの認知度が、思っていたより低かった。 ・市のホームページへの掲載、パンフレットの配布、地域からの要望に応じた説明等の実施をしてきているが、より一層の周知活動が必要であった。 ・整備促進地区においては、まちづくり協議会と連携して重点的に整備する路線を選定し、直接地権者へ働きかけるなど、積極的に取り組んでいくことが必要である。
16	バス交通等地域対策協働事業	交通政策課	もう一歩！ (要改善)	0	5	5	もう一歩！ (要改善)	・財政的な仕組み「持続可能性」が必要 ・住民への正しい情報周知を行う	行財政改革 AP II	・生活交通の確保については、市民の方々の関心が高いことが伺われた。 ・市の支援制度について、市民の方々の認知度は低かった。 ・地域におけるコミュニティバスやデマンドタクシーの運行状況についても、周知していく必要があると感じた。
17	バス運行対策費補助事業	交通政策課	もう一歩！ (要改善)	0	6	4	もう一歩！ (要改善)	・データの確実な分析、ニーズ調査が必要 ・乗ってもらうための工夫を検討する。	行財政改革 AP II	・生活交通の確保については、市民の方々の関心が高いことが伺われた。 ・路線バスなど、交通機関の利用動向の分析を十分行い、丁寧な説明を行っていく必要があると感じた。 ・路線バスの利用実態や市の補助制度について、市民の方々の認知度は低いと感じた。
18	空き家バンク事業	住宅課	もう一歩！ (要改善)	2	5	3	もう一歩！ (要改善)	・環境美化の推進が必要 ・建物入居率をあげる。入居率をあげるには民間との連携が必要	行財政改革 AP II	・空き家について、市民の方々が身近な問題として捉えており、空き家問題への関心が高いことが伺われた。 ・空き家バンクに対する、市民の方々の認知度が低いと感じた。 ・利用者数の増加を図るため、民間との連携などを含め、制度の見直しを行う必要があると感じた。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

■点検結果が「いいね！（継続）」となったもの（18事業）

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の得られた気づき
				ちょっと待った！（廃止・凍結）	もう一歩！（要改善）	いいね！（継続）				
19	職員採用試験	人事課	いいね！（継続）	0	2	9	もう一歩！（要改善）	・辞退者を減らす努力が必要 ・受験者数を増やす（母数を増やす）ため、市の魅力の伝え方が重要	—	・採用試験は、必要不可欠なものとして市民の方々に認識されていることを実感した。 ・福利厚生について、もっと採用説明会などの場で説明して、アピールすべきということを認識した。
20	情報セキュリティ	情報管理課	いいね！（継続）	0	4	5	もう一歩！（要改善）	・職員の利便性とセキュリティのバランスを考慮する。 ・ハード面でもGooglechrome等を使うことによって、ファイル交換が可能かつ職員の利便性が著しく悪くならないような対策が必要 ・自己点検のやり方の見直し、点検直後に回答が見られるようにする。 ・漏洩後の対応として、研修やシミュレーションの検討が必要	—	・情報セキュリティの重要性を再認識した。 ・事業の方向性は適正であるが、細かい部分で改善改革の余地がある。 ・セキュリティ強化と職員の事務効率化のバランスを考慮しつつ施策を展開する必要がある。
21	健康・医療相談ダイヤル24事業	保健福祉課	いいね！（継続）	0	3	3	いいね！（継続）	・費用対効果を数値として把握する。 ・周知方法を工夫する。	—	・事業の費用対効果の把握については、検討していく。 ・広報紙、HP、イベント時のチラシ配布など、様々な手法により周知に努めてきたが、まだまだ事業を知らない市民の方が少なくないことに気付かされた。今後、新たな周知方法を加えるなどし、事業の認知度を高めていきたい。
22	特定健康診査・特定保健指導事業	国民健康保険課	いいね！（継続）	0	1	5	もう一歩！（要改善）	・健康意識の低い人へのアプローチ方法を検討する。 ・インセンティブ、具体的な困り事をイメージする。	—	・国民健康保険で実施している、特定健診を受診した人への特典を設けるなどのインセンティブが、健康意識の低い人へのアプローチの一つとなる。 ・特定健診とがん検診の同時実施が受診率の向上につながる。
23	出産前後家事等サポート事業	子ども福祉課	いいね！（継続）	0	0	10	もう一歩！（要改善）	・入口の一本化 全体的に見て、いろいろなサービスがあるのは良かった。ただ、個々の事業ごとにバラバラ感があってわかりづらい。組織的な課題、周知の課題を含めて、うまく対応できればもっと良い支援になるのではないかと。特に、周知については中心的な事業を柱にPRするようなことも考えられる。また、個々の支援サービス間の連携も必要ではないか。	—	・出産前後の心身ともに不安定な時期に、妊産婦の支援を行う事業の必要性については、市民の方々の関心や理解が非常に高いことがわかった。 ・事業を開始してまだ約1年が経過したところであるが、多くの人が利用しやすい制度として、さらに充実を図っていく必要性を感じた。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考 コーディネーター判定	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)				
24	ファミリー・サポート・センター事業	子ども福祉課	いいね！ (継続)	0	3	6	もう一歩！ (要改善)	・制度充実提案として、協力会員の不安払拭のための制度を整える。協力会員が増えない要因の一つとして「不安」があるのではないかと。保険などの制度を整えることで、また、そのような対応をしていることを周知することで、不安が解消され、協力会員が増えることにつながるのではないかと。 ・制度の周知 出産前後という対象年齢になってからの周知だけではなく、若いうちからの周知も大切ではないかと。	—	・子育て経験が少ない若年層（10～20歳代）や高齢層の市民の方々についても、制度や協力会員としての活動に興味や関心が高いことがわかった。 ・子育て世代に限らず、多くの人たちへ制度を周知していく必要性について、認識を新たにした。
25	病児保育事業	保育課	いいね！ (継続)	0	1	8	もう一歩！ (要改善)	・利用率などの現状把握と分析 人口規模と施設配置の適正さを判断するなどのためにも、個々の施設の利用率などを見る化して分析してはどうか。 ・施設の地域偏在 受け入れ施設を増やすことには医療機関の協力など様々な制約があることは理解できるが、それでも地域ごとの利用状況を分析するなどの検討は必要ではないかと。 ・周知 現状の分析に基づいたデータなどを使って、もっと広く周知することで良い支援につながるのではないかと。	—	・事業については、広く周知していると考えていたが、子育て世代だけではなく、それ以外の世代など、更に周知先を広めることも必要と感じた。
26	放課後児童クラブ整備事業 放課後児童健全育成事業	保育課	いいね！ (継続)	0	0	9	もう一歩！ (要改善)	・子ども未来部の哲学 就労支援、子育ての中心的存在である、子ども未来部として基本的な哲学を持って、進めてほしい。 ・待機解消に向けて 場所の確保は教育委員会としっかり協議してほしい。また、空いている施設を見る化するなどの周知に工夫を加えてほしい。 ・地域間の差 待機が多い地域、少ない地域などの差があることを課題の一つとして考えてほしい。	—	・これまで、利用（見込み）者を中心とした周知に取り組んできたが、市の子育て施策の一環として、広く多くの市民の方々に対して周知を図っていく必要性を感じた。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考 コーディネーター判定	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)				
27	産後ケア事業	子育てネウボラセンター	いいね！ (継続)	0	2	8	もう一歩！ (要改善)	・今後の需要対応 需要が増えれば良いということではないが、今後の動向にどう対応するかは重要な課題ではないか。 ・成果指標の再確認 虐待防止などを防ぐという ような本質的な成果を考 えるべきではないか。 ・他の対策との連携 出産前後は色々なケアが 必要であり、この事業と他 の事業との連携も重要な 視点である。	—	・対象者以外への周知の 必要性について認識を新 たにした。 ・需要が増えた時の対応 について、改めて検討の 必要性を感じた。
28	住宅用省エネ設備等設置補助事業	環境管理課	いいね！ (継続)	0	1	4	もう一歩！ (要改善)	・常に先を見た分析(国の 制度、市原のCO2削減量 の現状把握)が必要 ・CO2削減の目標の達成 年度としては限定的 ・製品価格に占める補助 金の額もかなり小さい	—	・地球温暖化対策に前向 きな考え方をお持ちの方 々が増えている。 ・省エネ機器を導入促進 することで、ライフスタイル を考えるきっかけになるな ど、多方面に波及効果が 得られるよう進めたい。
29	環境学習事業	環境管理課	いいね！ (継続)	0	1	4	もう一歩！ (要改善)	・環境への意識を持って いない人の巻き込み方を 検討 ・企画内容に大学生や高 校生などに関わってもら う。	—	・会場の設定や、気が付 いてもらえる広報に一層 の工夫が必要である。 ・魅力ある企画とするた めに、多角的に検討したい。
30	新産業導入促進事業	商工業振興課	いいね！ (継続)	0	1	4	もう一歩！ (要改善)	・奨励金のメリットの可 視化(他市比較)が必要 ・新規投資案件を増加さ せる工夫が必要	—	・奨励金については、各 自治体によって制度が異 なるため、単純な比較は できないが、本市の制度 の優位性をできるだけ分 かるようにするとともに、PR することにより、新規の 企業立地や設備投資の 促進を図っていきたい。
31	道路愛護推進事業	道路維持課、南部土木事務所	いいね！ (継続)	0	4	6	いいね！ (継続)	・担い手として、行政直 営より住民がやる方が良 い ・制度の適正な周知が必 要	—	・市民の方々の認知度が 低かった。 ・今後の支出を抑えるた め、支給品の工夫をする。
32	河川愛護事業	河川課	いいね！ (継続)	0	4	6	もう一歩！ (要改善)	・河川愛護団体の存在や 活動自体が知られていな い ・団体の活動の効果的な PRが必要	—	・現在、本課はポスターの 掲示やリーフレットの配 布によって河川愛護事業 の啓発を行っているが、 事業の存在や内容が市民 の方々に認知されていない ことが分かった ・市民の方々に向けて、よ り効果的なPRを実施して いく必要がある。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考 コーディネーター判定	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)				
33	小学校少人数学級推進事業	学校教育課	いいね！ (継続)	0	0	7	もう一歩！ (要改善)	・教師の人数だけではない。教室などの環境も必要。 35人学級に対応する教師数だけに目を向けるのではなく、環境全体、特に教室確保など総合的に考える必要があるのではないか。 ・非常勤教師の資質 教員資格の有無、採用の具体的な手法などについて確認があった。 ・成果をどう図るか 学力格差をいかになくすかがポイントである。成績などを指標にすると数値化しやすいのではないか。いじめや不登校に対応するという視点はないか？	—	・この事業を広く周知していく必要があると感じた。 ・具体的な成果指標を設定し、ねらいを明確にして事業を進めていくことが求められる。
34	心のサポーター事業	指導課	いいね！ (継続)	0	1	6	もう一歩！ (要改善)	・今後の需要対応 カウンセラー・サポーターの能力を伸ばすかという点で数多くの指摘、提案があった。発達障害にどう対応するか？採用後の研修、能力アップ、評価体制などが必要である旨の指摘があった。カウンセラー・サポーター同士の情報共有体制の重要性についての意見が出された。また、相談体制の改善に向けた指摘としてアウトリーチの考え方や相談しやすい雰囲気、環境をどうつくるのかという指摘があった。 ・成果指標の再確認 成果指標の”好転”は相談を受けた側の評価。利用者側から見た好転という視点での状況把握が必要との指摘があった。	—	・市民の方々から肯定的な意見を多くいただいた。 ・心のサポーターの資質能力の向上について意見をいただいた。 ・心のサポーター事業の効果の検証方法について検討していきたい。
35	教育の情報化推進事業	教育センター	いいね！ (継続)	0	0	7	もう一歩！ (要改善)	・真に必要な対策は何か？ 機材やソフトウェアを揃える、というような環境整備も必要であるが、情報化社会で生きていくための教育をしっかりと考える必要があるとの意見が出された。環境整備とネット環境を安全に使いこなす能力育成の両方の視点が大切である。 ・指導者に必要な資質は何か？ 先生がIT分野を教えることは困難ではないか。専門家が必要ではないか、という意見が出された。	—	・市民の方々はPC等整備について、国の整備方針に基づいたスピード感のある整備を求めていることがわかった。 ・ネットトラブル等に子どもたちが巻き込まれないよう、安全対策を含めたりテラシーへの関心が高く、学校での指導に反映させる必要がある。 ・専門家の派遣、活用についてどのようなことができるか検討していきたい。

事務事業の市民点検 点検結果及び中間報告一覧

No	事務事業名	部署名	【点検結果】						【中間報告】	
			判定	内訳			参考 コーディネーター判定	判定のポイントとなったキーワード	検討の方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)				
36	いちはら伝統芸能体験事業	ふるさと文化課	いいね！ (継続)	0	2	5	もう一歩！ (要改善)	・真の目的は？ 真の目的は継承者の育成ではなく、伝統芸能に触れるきっかけを創り、若いうちに伝統芸能に対する興味、関心を植え付けることではないか。 ・事業の周知方法 もっとビジュアルな伝え方を工夫すべき。 ・事業効果を継続させるためには？ 一回限りでは効果がでないのではないか？講師を招いて実施する体験は、きっかけとして位置づけ、その後も継続できるような工夫、DVDやYouTubeなどをすべき。	—	・市民の方々の伝統芸能への関心が想像していたよりも高かった。 ・体験した伝統芸能を、児童生徒がその後も続けられる仕組みが必要であることが分かった。 ・参加者の興味をひくためにも、チラシには写真を入れる等の視覚に訴える工夫が必要と分かった。